

平成28年度 第1回学校関係者評価委員会議事録（要旨）

日 時 平成29年7月20日（水）15:30～16:40

場 所 会議室

出席者 評議員（4名）、PTA会長、母親委員会委員長、学校関係者（16名）

進 行 副校長

1 開会のことば

2 校長挨拶

・評議員の方には日ごろからお世話になっている。感謝したい。今年度もスタートから約3ヶ月が経過した。在籍生徒は現在841名である。運動会等の学校行事も終え、昨日終業式、部活動の壮行式があった。運動部・文化部とも全国大会に行くクラブが多数ある。課外は明日から始まる。今日は忌憚のない意見をお願いしたい。

・学校経営計画についての説明（資料P1～2）

教育目標は、平成14年から同じ目標である。重点目標は毎年変えている。4つの重点目標について補足。

(1)SGH事業を通して、グローバル人材の育成に力を入れている。

(2)進路指導では第一希望を優先させている。

(3)規則の遵守や挨拶については、十分指導できていない。

(4)部活動・生徒会活動は活発だが、ボランティア活動は取り組みが不十分である。

指導上の重点事項については各分掌主任から説明がある。

・学校設定目標値についての説明（資料P3）

「授業の内容が分かった」、「自分にはよいところがある」等、本校の目標値は県の目標値よりも高くしている。

3 委嘱状交付

4 自己紹介

5 学校概況報告

・教務課

生徒在籍数確認。主体的な学習姿勢を身に付けさせ、学力を向上させることを目標としている。特に資料2ページ学習指導(3)(4)を意識して指導している。また、上位者には個別添

削指導、下位者には考査前補習等で指導している。特に授業を重視しており、教員同士の互換授業を年2回実施している。また、今後観点別評価も実施する。

・生徒指導課

挨拶は学年で指導している。運動会後のアンケートで、2・3年生の自己存在感が低かった。いじめの指導は組織的に行う。携帯電話の間違った使い方や問題行動は目の届かないところで進むので注意したい。インターネットでトラブルにならないように指導している。自転車の事故が非常に多い。今年度は13件目。昨年度はこの時期までで1件だけであった。1年生の事故が多い。また、自転車の乗り方に関する苦情が多い。そのつど現場を確認し、生徒課通信に載せている。生徒指導は学校の指導だけでは限界がある。保護者、地域の皆様の指導への協力に感謝したい。

・進路指導課

S G U進学実績について(資料 P9 の説明)は、生徒が第1志望を貫徹した結果である。東大は22名受験し、6名合格した。不合格者の内、14名が再度東大を目指して浪人している。3年生の夏休み課外は希望者登録制にしている。面談旬間を設け、定期的に面談を実施している。現役合格にこだわっていない。予備校訪問をするなど、過卒生も大切にしている。

・厚生課

ペットボトルの捨て方について指導している。

・教育相談課

不登校生徒について

(1) 1年：予備軍数名 予防的な指導をしている。

(2) 2, 3年：進級してから改善傾向にあるが、未だに支援を必要としている生徒もいる。

担任、カウンセラーと協力して指導している。保護者の方からの相談も受け付けている。

・総務課

危機管理マニュアルを作り、全職員に配布している。生徒全員分の非常食(カロリーメイト)、水を保管している。毎年避難訓練を実施している。今年度、防災講演会を実施予定である。

・S G H推進課

昨年度実施状況は評価委員会の皆様には郵送済みである。

各学年の取り組み状況

(1) 1年：インタビュー学習を夏休みに実施する。

(2) 2年：課題研究を進めている。

(3) 3年：英語で研究発表会を実施した。

ホームページに取り組みを載せているので、ぜひご覧いただきたい。

・1 学年

1名転学した。不登校傾向の生徒が2名いたが、指導後がんばって登校している。交通事故（接触事故）が多い。入学当初から数学が弱い。がんばって指導していきたい。

・2 学年

昨年度、2名進路変更した。その他3名不登校傾向のある生徒がいるが、改善してきている。当たり前のことを当たり前にするように指導している。自立させたい。将来へのビジョンを持って主体的に学ばせたい。学力だけでなく、人間性の偏差値を重視している。昨日、進路資料を使って学年で指導した。皆真剣な眼差しであった。夏休み中にチャンスを活かせるような生活をするように指導している。頑張っている生徒に目を向けていきたい。そして、苦しい時にがんばる生徒を育てたい。

・3 学年

不登校生徒が数名いる。SG研究発表を英語で実施した。明日から課外が始まる。午後は選択制にしている。平常課外も選択制にし、主体的な学習を促していきたい。納得した受験を通した人間形成を図りたい。

6 意見交換

A 委員

資料3ページの評価結果が高い。数値目標が高く、達成するのが大変だと思う。どのようにしてさらに数値結果を高くしていくのか。

回答（生徒指導課）

答えがない質問や、問題を投げかけて終わる時もある。アンケートに「いいえ」と書いた生徒のことも尊重したい。いつも授業では具体的に説明する努力をしている。

回答（SGH推進課）

基礎・応用を混ぜながらバランスよく指導するようにしている。毎日が改善である。

B 委員

これほど評価結果が高いと1ポイント2ポイント高くすることを目標とするより、別の視点から改善点を考えた方が良いのではないかと。生徒による評価は疑問に思う時もあるの

ではないか。また、アクティブラーニングのやり方とはどんなものか。

回答（教務課）

講義形式ではなく、ディスカッション等を用いた学び方である。

回答（副校長）

アンケートの結果、「授業は生徒が質問や発言をしやすい雰囲気である」の数値が上がっている。アクティブラーニングの成果かもしれない。

C 委員

教育相談課の説明にあった、思春期に戸惑う保護者とはどのような保護者のことか。

回答（教育相談課）

中学校までは順調であったが、本校に入ってから自分より優秀な生徒が多く、登校を渋るようになってしまい、どう子どもに接したらいいのか戸惑っている保護者がいる。スクールカウンセラーに相談している。

C 委員

不登校の原因は、勉強についていけない生徒が多いのか。

回答（教育相談課）

人間関係で悩む生徒は少ない。学業成績が関係している場合が多い。

D 委員

一高生の活動をなかなか見られない。高校では何をやっているのかよく分からない。一高生の学習の妨げになるのであればだめだが、中学生にもSGH事業の取り組みなどを見せていただく「学校へ行こう週間」的なことができればと思う。数学の学力低下については、中学校でしっかり力を付けてから高校に進学させたい。

E 委員

先生方の熱意が感じられる。良い指導をして頂いていると思っている。数学・英語で個別に分かりやすく指導していただいているようだ。同窓生として応援活動が少ないように思う。高校野球の全校応援実現は良かった。応援が楽しかったという思い出ができればありがたい。

D 委員

アンケート結果で、「自分にはよいところがある」と答えている生徒が増えている。中学校では、自己肯定感が低い生徒が多い。どういう指導をしているのか。

回答（教育相談課）

本校の先生は生徒の良いところを褒めているのではないかと。自信を持たせる指導をしていると思う。

F 委員

生徒指導通信のスポーツ祭後のアンケート結果では、1年生に比べると2、3年生の数値が低いですが、80を超えているので十分である。運動部の生徒は、怪我を恐れて全力でやっていない可能性もある。上の子どもが、以前別の高校で不登校になった。「成績を維持するのに疲れた」と言っていた。今一高に通っている下の子は、のびのびと生活している。2学年長の方針を聞いて安心している。

B 委員

先生方の多忙化を解消するために学校として取り組んでいることはあるのか。

回答（校長）

残業を減らすように職員会議で話しても現実的にはなかなか難しい。高いレベルの授業が求められるので、先ず教材研究が大変だと思う。また、部活動の指導で休めないことが多い。部活動ではコーチを雇ったり、複数の顧問を配置したりする等の対策をしている。課外希望制は、先生の負担を減らす目的もあった。しかし、生徒の受講希望が多く、なかなか残業を減らすことはできない。先生方の家庭のことも心配しているところである。保護者からの苦情等は、できるだけ管理職などでも処理するようにしているが、全てではない。水・金を定時退庁日にしたいが、なかなか難しい。

校長

本日は、教員が気づかないところをご指摘いただきありがたい。「学校に行こう週間」が本校でできるのか検証したい。多忙化が行き過ぎると生徒にも影響がでる可能性がある。本校は県政課題を担っている。皆様からさらなるご指導をしていただきたい。

7 閉会のことば

以上